

札幌市緑の審議会
第5回緑の基本計画部会

フォーラムのとりまとめ

平成 22 年 3 月 1 日

フォーラムのとりまとめ

2月11日に「さっぽろ花と緑のまちづくりフォーラム～札幌市緑の基本計画の改定に向けて～」を開催しました。「フォーラムのプログラム」、「参加者からのご意見シート」、「札幌市緑の基本計画改定に向けた中間報告概要版」については資料5のとおりで、当日ご参加していただきました200名の方に配布しました。

プログラム1のベニシア・スタンリー・スミスさんの講演では、ベニシアさんの生い立ちからはじまり、京都大原での生活について、自然に親しみハーブと共に暮らすことや自然と調和して生きることの大切さのお話がありました。

プログラム2では、話題提供者としてサッポロビール株の石原様、北海道大学の柿澤様、(財)札幌市公園緑化協会の荒川様、コメンテーターとしてベニシア・スタンリー・スミス様、コーディネーターとして審議会会長の吉田様、オブザーバーとして札幌市からみどりの推進部長により「人とみどりを“つなぐ”札幌のまち」と題してフォーラムを行いました。

当日は200名の方にご参加いただき、99名の方からご意見シートによりご意見をいただきました。意見概要は以下のとおりです。

<プログラム1に関して>

ベニシア・スタンリー・スミスさんの講演をお聞きになって、どのような感想をお持ちになりましたか？

ベニシアさんの話について

- ・とても楽しかった。
- ・生き方に共感した。
- ・自然を大切にした生き方が素晴らしい。
- ・自然を上手く生かした生活をしている。
- ・外国の方なのに日本人より日本人らしい生活をされていて、見習いたい。
- ・庭がとても素晴らしく参考になった。
- ・自然の良さを改めて感じた。
- ・人柄が素晴らしい。

これからどうしていくか

- ・ベニシアさんの本を読もうと思う。
- ・ベニシアさんのライフスタイルを真似したい。
- ・ハーブを育てようと思う。
- ・身のまわりの植物を生活に活用した暮らしをしたい。

意見・要望

- ・ハーブの作り方、利用方法などもっと具体的に知りたかった。
- ・花や緑の時期に北海道に来て欲しい。

<プログラム2に関して>

“つなぐ”というキーワードのもとに、花とみどりのまちづくりを進めていくことについて、どのようにお考えになりますか。

緑の基本計画について

- ・賛成。積極的に進めて頂きたい。
- ・計画が市民に知られていない。まずは計画を広めるべき。

提案など

- ・ベニシアさんのアイデアでボランティアではなく、仕事として若者を雇う制度に賛成。
- ・もっとボランティアを活用すべき。
- ・行政側がもっと行動・支援をしてほしい。
- ・学校での教育に取り込んだら良いのでは。
- ・管理が大変だがアフターケアが大事。
- ・一人一人が自分の身のまわりから取り組むべき。

“つなぐ”について

- ・花や緑が人と人をつないでいって欲しい。
- ・ステキな言葉だと思う。

<その他>

札幌の“みどり”に関して、気付いた点や普段から感じていることなど、自由にご意見をお書きください。

札幌のみどりについて

- ・外来種ではなくて、札幌に元々あるみどりを使ってほしい。
- ・住宅地にみどりが少ない。
- ・街路樹について、剪定や枯れ葉などのアフターケアをしっかりとってほしい。
- ・年々、みどりが少なくなっている。
- ・見た目ばかりではなく、質や環境も考えてほしい。

市に対して

- ・もっと税金を上手にみどりのために使ってほしい。
- ・みどりのための教育制度を整えてほしい。
- ・市からもっと情報を発信したり、働きかけてほしい。

ワークショップ参加者の意見

2月6日に平成21年6月のワークショップに参加していただいた方々に中間報告について説明し、ご意見をいただきました。ご意見の概要は以下のとおりです。

- ・外来種を含めて自然に対する正しい知識を持った上で、「みどり」をとらえるべき。
- ・少ない予算の中でみどりをつくっていくためには、これまでの行政担当者だけによるものではなく、地区ごとに、地域の専門家や市民、団体を巻き込んで考え取り組んでいく必要がある。意見を言えたり、何かやりたいといった時にここで出来ますよといったステージを行政が積極的に推進、指導してくれると良い。
- ・生物多様性の保全を考える場合、木の剪定ひとつとっても、業者任せにするのではなく、地域の住民や活動団体との連携を図りながらきめ細かに進める必要がある。
- ・基本理念が分かりにくい。「人とみどりが輝くさっぽろ」はスローガン。「みどり」がまちづくりの中心であるというメッセージを強く打ち出してほしい。
- ・主役は市民だという部分は市民自治の中で位置付けられている。緑の基本計画ではみどりが中心ということがきちんとうたわれていけば、細かな施策で予算が少なくて書けない部分があっても、それではどうすれば良いかという展開につなげていけると思う。
- ・体系図の中で、柱1がベースになっているところが分かりにくい。柱1は別だてにすべきではないか。
- ・「私たち」という言葉が多いが、私たちの歴史、ではなく、札幌の自然や大地が育んできた歴史を私たちが~、という言葉に置き換えた方が良いところもある。
- ・計画書の中で「みどり」を使うなら、タイトルを「みどりの基本計画」として、改定意思表示をすべき。
- ・柱1が他の柱を包括するというのは理解しがたい。中の内容には大きな問題はないと思うが、大きな枠のくくり方にズレがあるのは、全体の構成にもズレがあるのではないかと思わせるので良くない。
- ・自治基本条例や市民活動促進条例などの上位条例があるが、このみどりを扱う条例がどの位置付けにあるのか。市民と一緒にやることで実行力を高めるということはわかるが、みどりにかかわる条例がある程度効力や強制力を持たないといつまでも実現しない。このあたりがどこにも触れられていない。
- ・今後、フォーラムを開催したり広く市民に浸透させていくわけですが、次の10年、さらにその次の10年後に、以前の10年よりも市民がみどりに関わる密度が高まる、というような取組みの下地づくりができれば良いのだと思う。
- ・狭い範囲の地域でのみどりの活動は町内会や活動団体で展開できるが、市民が札幌全体のみどりに関われるのがイベン

ト的なものだけではなく、行政側が札幌市全体のみどりを考えるのと同じように、市民の側でも定常的に意見交換や情報交換、意見の吸い上げができるような場づくりを目指すべき。また、そういったグループや組織を守っていく、担保していくということが計画に盛り込まれるべき。たとえば、エルプラザのように、札幌市のみどりについて意見が言えたり、情報が集まってくるような場、行政がやっていることを監視できるような場があると良い。

・協働参画はうたわれているが、それをどうやって進めるかをうたうべき。

・行政と個別団体との情報交換などは今でも行っているが、単独の団体では動きも制限されてしまう。もう少し市民側が発言権を持てるような土俵が持てれば良いと思う。

・第4回ワークショップが開催されたら、パブリックコメントをワークショップ参加者が広く市民にPRできないかとお願ひしたいと思っていた。3回のワークショップではアイデアプールの状態だったし、今日も個別に聞いて即答いただいたり記録していただいただけで終わってしまうのは残念。ぜひ、第4回ワークショップを正式に開催していただきたい。